

受けて引き上げられたもので、このまま月末まで建値に変更が無ければ平均建値は81万6,000円となる。

7日入電のLME銅相場がセツルメントでは9,432ドルで、これと同日発表のTTSレート82.01円とで換算した採算価格は77万3,500円となり、建値と採算価格からみた諸掛りは4万6,500円となる。

直近6ヶ月の建値推移は次の通り。

(キロ当たり円、カッコ内は改定日)

・2011年

2月	= 850(1) 860(3) 870(7)	
	900(15) 870(18) 860(23)	平均 863.1
3月	= 850(1) 860(7) 840(9)	
	810(11) 780(16) 820(22)	
	830(25)	平均 826.2
4月	= 830(1) 860(7) 870(12)	
	830(15) 820(20) 830(26)	平均 838.5
5月	= 750(6) 760(11) 780(19)	平均 768.3
6月	= 790(1) 770(6) 760(13)	
	780(16) 770(21)	平均 772.7

7月 = 800(1) 820(7)

平均 816.0

Copper “セツ” は ALLOY の専門商社。

専門商社だから出来る豊富な品揃えと的確な在庫管理は進化を続ける、日本産業にもスピーディに対応します。

海、陸、空。そして未来へ…

“セツ”では特にアルミニウム青銅合金(アームストロング)を重点にその優れた特性で様々な業界、あらゆる分野の発展に寄与。舞台は宇宙へ、深海へ。“セツ”は未来の要を支えます。

連続鋳造銅合金、ダイカスト製品ほか少ロット製品も迅速対応
在庫常時600t・Copper ALLOYのことなら

SSM 摂津特殊金属株式会社

〒534-0013 大阪市都島区内代町4-6-22

TEL 06(6955)3751 代表 FAX 06(6955)5557

在庫センター・大阪市都島区都島北1-20-25

<http://www11.ocn.ne.jp/~settu/index.html>

アルミ・銅、自動車急速回復で堅調 輸入で伸銅メーカー在庫潤沢、買い控え続く

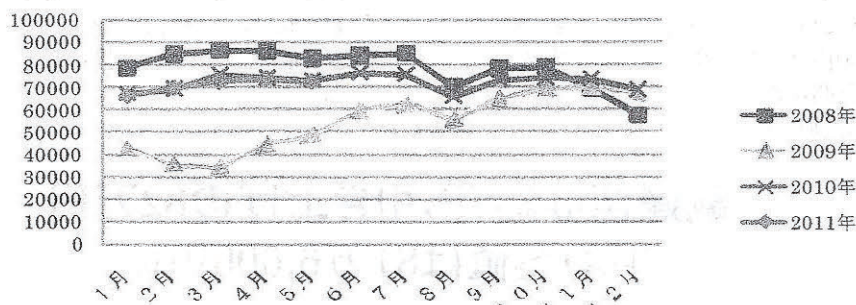
橋本健一郎氏(橋本金属)は、7月の銅とアルミの原料価格動向と需給についての見通しレポートをまとめたので紹介する。

LMEのアルミと銅の価格について、ギリシャ議会での関連法案可決によるギリシャ懸念の後退 それによる世界景気回復が期待できるが、中国経済指標の減速懸念や米連邦債務引き上げでの与野党の混乱に伴う米景気停滞観測も予測、またコモ

ディティ全般がインフレ懸念の対象となっていることから上値は重たくアルミは2,500-2,600ドル、銅は8,700-9,700ドル。銅建値では74-82万程度と予測している。

アルミ原料価格は前月に続きLME価格に上昇要因は少ないものの、最大の需要家である自動車メーカーが3ヵ月ぶりに生産計画を発表するなど早期生産回復は確実なものとなった。6月後半価格から据え置

伸銅品生産推移



きから5円高の上昇を予測する。

なお、アルミ2次合金の輸入塊は上海シグマが6月末現在で2,500ドル、ロシア塊は2,230ドルと前月比80ドル上昇している。

7月以降のメーカーの原料需給については、5月は自動車生産を中心に急激な回復の月となった。壊滅的な影響を受けた自動車生産は前月比67.7%増の48万9千台と急回復！また新設住宅着工数は季節調整前月比2.1%増の6万3千戸台。前年比で6.4%増と大幅改善。それに伴い早期生産回復にあった伸銅品、黄銅棒共にいままで以上の仮設・復興需要が期待されるが4、5月ともに昨年比で12倍程度の電気銅が緊急輸入されて

おりメーカー足元在庫は厚く、少なくとも7月中は買い控えが続くとの見方を示している。

電線・ケーブル

ご一報の上お越し下さい

ナゲット加工

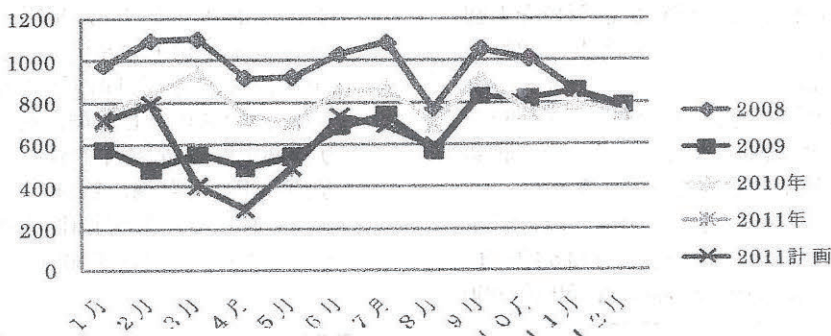
大栄テック(有)

(国道163号線に面す)

〒575 四条畷市大字中野541

-0052 電話 072-878-5115

自動車生産実績/計画



海外

ロシアの銅輸出新関税方式、秋に施行予定

ロシアでは現行の銅輸出関税率が一律10%であるが、スレプニョフ連邦経済発展省次官は「銅の累進輸出関税が今秋から施行される見込みである」と述べた。

なお、ニッケルの輸出関税については一律10%だったところ、既に2001年春に累進税率が導入され、LMEのニッケル価格水準に応じて変動する税率に変更されている。

ロシア、アルミニウム輸出は当面課税せず

ロシアのスレプニョフ連邦経済発展省次官は、「当面、アルミニウムに対し輸出税を導入することはない」と述べた。

また同次官は、アルミニウムの多くは外国から持ち込まれているものであり、内閣に提案する理由を見出していないと付言している。

BHP、Ok・Tedi銅鉱山が操業延長困難に

BHP・Billitonはパプアニューギニア政府とJVで操業するOk・Tedi銅鉱山について当初予定していた2013年閉山を見直し、生産を2022年まで続ける考えを持っている。しかし同国のPundari鉱山大臣がこの延長に対して反対の意を示しているという。

同鉱山では廃鉱処理の河川汚染により多数の付近住民の生活が脅かされ、環境の回復のために多くの資金が投じられた経緯がある。

環境への配慮が満たされないままでの操業期間延長に対して、同大臣は2009年に改正された環境法に照らし反対の姿勢を示すと見られている。